

講義名	解剖学
開講学年	2
単位	2

授業の達成目標	人体の構造を知り、栄養学各論、栄養学総論、臨床栄養学など他科目の理解をより深めることができる。
授業の概要	比較的難解な解剖の分野について、骨格模型や3Dの映像を観察し理解する。
授業形式	講義及び実験

授業計画表

回	項目	内容	キーワード・備考
1	身体の構成	生物の体を作る単位である細胞、組織、器官及び系についてその概略を学ぶ	細胞小器官（オルガネラ）
2	組織	組織にはどんな種類があり、どのような構造をしているか学ぶ	上皮組織 筋肉組織 神経組織
3	骨格系	身体を支える骨格系の構造を学ぶ	
4	筋肉	身体を動かし、内臓を働かせている筋肉の構造を学ぶ	骨格筋 平滑筋 心筋
5	循環系	全身の栄養素や酸素を運び入れ、老廃物や二酸化炭素を運び出す循環系の構造を学ぶ	動脈・静脈 縫合 関節
6	呼吸器系	身体に酸素を取り込み、二酸化炭素を体外に排出する呼吸器系の構造を学ぶ	鼻腔 肺胞 サーファクタント
7	消化器系	食べた食物を栄養素に分解し、消化器の構造を学ぶ	口腔・食道・胃・小腸・大腸・肝臓・胆・膵臓
8	泌尿器系	老廃物を体外に排出する泌尿器の構造を学ぶ	ネフロン 尿細管 腎小体

9	生殖器系	次世代を生み出す生殖器系の構造を学ぶ	
10	内分泌系	ホルモンを分泌し、身体全体の恒常性を維持する内分泌系の構造を学ぶ	下垂体 視床下部 甲状腺 副腎
11	神経系	体外・体内情報を中枢に伝え、反応を生み出す神経系の構造を学ぶ	シナプス ニューロン
12	感覚器系	体外情報を認知し、電気信号に変える感覚器の構造を学ぶ	視覚 聴覚 嗅覚 味覚
13	皮膚	体外環境から体内を隔て、体内を保護している皮膚の構造を学ぶ	触覚 圧感 冷感
14	成長と老化	生まれてから老人に至るまでの体の構造変化を学ぶ	アポトーシス ネクローシス テロメア
15	まとめ	前期の総括	

事前・事後学習の内容	順次教科書の前半から授業は進めていくため、予習しておく。
成績評価の方法	テスト100% 評価基準は合計90点以上：S、85～89点：A+、80～84点：A、75～79点：B+、70～74点：B、65～69点：C+、60～64点：C、60点以下：Dとし、Dは不合格とする。ただし、出席が2/3未満の場合は評価をせず不合格とする。
参考書	
教材	教科書（栄養科学イラストレイテッド解剖生理学：羊土社）